

Sho Jaku Kan

書籍館 vol. 12
2023 Autumn

ANTONIVS TASSA-
RA AVCTOR AD LECTOREM.



V M. illo instigante spiritu, qui primæ ho-
minum morti causam dedit, qui aliment
concutit, hominum mentes turbat, curio
tatem humanam illudit seq; in angelo
cis transfigurat & in habitu & u
sti nomine se subornat, mortales sepißimi a semita
rectoque uiuendi tramite declinent potentia
retitumq; rationi præferentes malis omnib
quã ad ueritatis scientiam per
ut sicut Iannes & Manibr
manæ misertus ille
rium et scie

CONTENTS

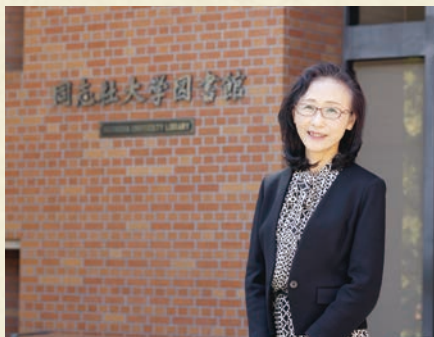
- 1 新館長挨拶
- 2 講習会・e-learning・展示のご案内
- 3 今出川図書館(新寧静館)の紹介
- 5 電子書籍試し読みサービスの紹介
- 7 所蔵資料紹介

所蔵資料紹介

Ars dictandi et Ars notariae

小室・沢辺記念文庫「立原翠幹集」

Message



本年度より同志社大学図書館長に就任いたしました菊田千春です。本学出身の私にとって、図書館、特に今出川図書館は学生時代、友人と多くの時間を過ごし、勉強に勤しんだ大変思い出深い場所です。自分の専門分野の書架に並ぶ、書店とは比べ物にならない冊数の本を前に、圧倒されるような気持ちになったり、どの本も面白そうでワクワクしたことを覚えています。天井の高い静謐な環境で机に向かう、背筋の伸びるような感覚が好きでした。教員となってからも、両校地の図書館を活用して参りました。

本年度は、本学の図書館の1つ、今出川図書館にとっての大きな節目となる年です。すでに2021年『書籍館』Vol.10の特集記事でお知らせの通り、本学創立150周年記念事業の一環として、今出川校地新図書館の建設が企画されておりますが、その建設工事がいよいよ今秋から始まります。

現在の今出川図書館は1973年12月に竣工し、長きにわたり、私自身を含め、多くの学生に親しまれ、利用されてきました。烏丸今出川の交差点角に立つその姿は、今出川キャンパスのシンボリックな建物の1つであったと思います。しかし50年の時を経て施設・設備の老朽化が進み、さらに、バリアフリーへの対応、耐震基準の充足、資料収蔵力の増強などが課題となっていました。このような課題を解決すると共に、時代と共に変化する利用者のニーズに応える、新たな大学の知のシンボルとして、今出川図書館は新たに生まれ変わることになります。

このように新図書館の建設は希望に溢れた事業ではありますが、その工事のため、現在の今出川図書館は2023年8月半ばで閉館し、新図書館の開館までの2年半、新寧静館に図書館機能を移転します。現在、今出川図書館にはおよそ90万冊の資料がありますが、新寧静館で収蔵しきれない資料につきましては、博遠館や学外倉庫を用い、請求のあった資料を取り寄せ、閲覧や貸出に供します。このような大規模な図書館機能の移転は本学では前例がありませんので、不測の事態が起こらないよう、図書館スタッフや関係者は長い時間をかけて綿密に議論を重ね、準備を進めてきました。私自身はこの4月まで単なる利用者として図書館と関わって参りましたが、バックヤードでどれほど大変な作業がおこなわれてきたかを知り、驚くと同時に、その周到な準備の様子にひとまず安心もいたしました。

新図書館の開館までの間、今出川では閲覧室や自習室などの空間的な環境はかなり制限されてしまいますし、利用者の皆様にはさまざまなご不便をおかけするかと存じます。それでも、電子書籍サービスの拡充を図るなど、利便性をできるだけ損なわないよう、利用者の立場に立ったサービスを継続して提供していきたいと考えております。サービスの詳細につきましては、本誌及び図書館webサイト等で情報を公開しておりますのでご確認ください。幸いです。

新たな歩みを始めた両校地の大学図書館の取り組みに対し、今後ともご理解とご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

同志社大学図書館長 菊田 千春





図書館講習会

図書館を活用し、みなさんの大学での学習に役立てられるようにレベル・目的に合わせた講習会を多数企画しています。ぜひご活用ください。

詳しくは、図書館webサイト【講習会のお知らせ】をご確認ください。

順次、最新情報を掲載しています。

<https://library.doshisha.ac.jp/skillup/index.html>



その他、お申込みやお問い合わせは、今出川図書館またはラーネード記念図書館のレファレンスカウンターまで。



図書館講習会 e-learning

図書館webサイト

[図書館講習会 e-learning]では

講習会に関連した内容を

web上で学ぶことができます。

講習会に参加できなかったときや、

内容を復習したいときなどに

ご活用ください。

図書館講習会 e-learning トップページ



コンテンツメニュー

展示のご案内

同志社トライアングル「3」が紡ぐヒストリー



期間：2023年10月2日～2024年3月22日

場所：ラーネード記念図書館2階展示室

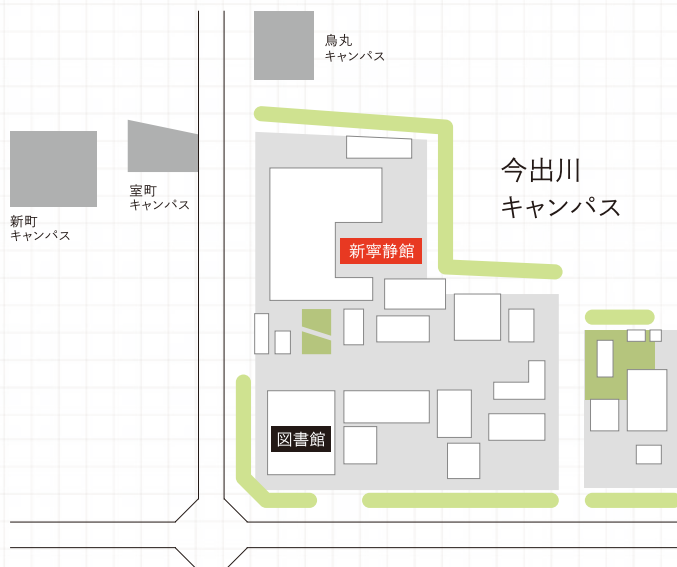
みなさんは、同志社大学の徽章が3つの三角形で構成されていることは、ご存じのことと思います。今回の企画展では、徽章の成り立ちをはじめ「3」の数字を切り口に、同志社設立の貢献者や同志社精神を象徴する京田辺キャンパス内のメッセージ等を解説し、関連図書を展示いたします。

今出川図書館は新寧静館

今出川図書館は、建替工事のため一時閉館し、「歴史」・「知」の集積を象徴する新時代の図書館に生まれ変わる予定です！
建設期間中は、皆様にはご不便、ご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

▶ 2023年9月からは新寧静館で図書館サービスを提供！

2023年9月からは、新寧静館1階および地下1階に図書館機能を移転しています。図書の貸出や返却、レファレンスサービス等の基本的なサービスや、閲覧室・雑誌コーナー・参考図書コーナーといった各種スペースを提供し、利用者の皆様の利便性を保ちます。また、2階には約300席の自習室を設けています。さらに、博遠館地下にも書庫を設け、今出川キャンパス内に可能な限り資料を收藏し、提供します。キャンパス内に收藏しきれない資料については、学外倉庫を活用し、資料配送システムによって資料へのアクセスを確保します。貸出冊数や開室時間はこれまでと変更ありません。開館日等の詳細は、図書館webサイトをご確認ください。



資料配送イメージ

博遠館書庫や学外倉庫、ラーネード記念図書館(京田辺キャンパス)の資料はMyDOORS又はカウンターから取寄せ申込みが可能です。博遠館書庫とラーネード記念図書館の資料は申込み当日もしくは翌日に、学外倉庫の資料は翌日もしくは翌々日に今出川図書館(新寧静館)に届き、受け取ることができます。 ※ラーネード記念図書館での受け取りも可能です。

MyDOORS から申込みと...



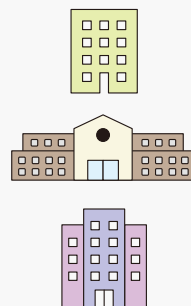
今出川図書館(新寧静館)



当日 or 翌日

博遠館書庫
※入庫不可

ラーネード記念図書館

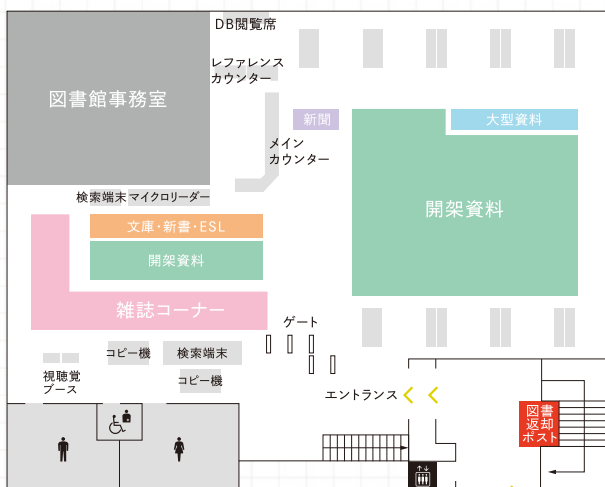


翌日 or 翌々日

学外倉庫
※入庫不可

に機能を移転します。

FLOOR MAP

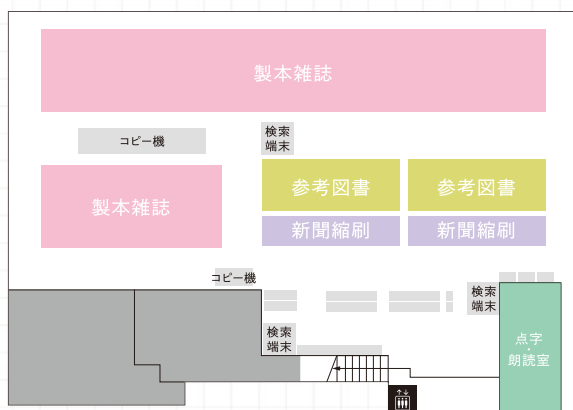


1F

1階は
開架閲覧室機能を備えます。
収納可能冊数約11万冊!

B1F

地下1階は
製本雑誌、参考図書コーナー、
書庫機能を備えます。
収納可能冊数約18万冊。



▶ 新今出川図書館について

新今出川図書館に関する機能、イメージ、詳細なスケジュール等は、随時図書館webサイトに掲載予定ですので、そちらをご確認ください!

こちらからもCHECK!



電子書籍

試し読みノススメ!



図書館では、紙の本のほかにオンラインで読める電子書籍を購入しています。
また、購入していない電子書籍でも、**試し読みサービス**を使えば、一定時間の閲覧が可能です。
試し読みをした後で「全文読みたい」「図書館で購入してほしい」と思ったものは、**購入リクエスト**ができます。

電子書籍のココが便利 | いつでも、どこでも、手軽に

- 24時間いつでも読むことができる
- パソコン、スマートフォン、タブレットがあれば、どこからでも利用できる
- 紙の重さから解放される
- 図書館の貸出冊数と関係なく利用できる
- 返却も簡単!「閲覧終了ボタン」を押すだけ
- 辞書や事典など貸出不可の本でも自宅で利用できる
- 本が貸出中でも、電子書籍で同じ内容のものを読むことができる

電子書籍のちょっと不便なところ

- パソコン、スマートフォン、タブレット等のデバイスがないと読めない
途中でバッテリー切れになったら…使用不可
- 画面が小さく、読みづらさを感じることも
- 端末のバックライトが目が疲れやすい
- 電子化されているものがまだまだ少ない
- 同時に利用できる人数が決まっている

特徴的な機能

- 音声読みあげ：外国語の習得のため／ハンズフリーで聴ける／バリアフリーに対応
- テキスト検索：探したいキーワードで検索すれば…該当キーワードが記載されているページへ遷移
- ダウンロードや印刷も可能* (*一定の制限がある)

……などなど

★メリットとデメリットをうまく使い分けて、電子書籍を利用してみよう

電子書籍は図書館webサイトから試し読みができる



試し読みできる電子書籍 (①②和書 ③洋書)

①丸善雄松堂が提供する
Maruzen eBook Library
(約15万タイトル収録)

②紀伊國屋書店が提供する
KinoDen
(約7万タイトル収録)

③ProQuestが提供する
Ebook Central
(約180万タイトル収録)

※図書館で購入していない電子書籍も上記のプラットフォームなら一定時間試し読みができます。

Let's Try! 購入リクエストをしてみよう!

試し読みをした電子書籍が必要だと思ったら、リクエスト機能で購入希望を出しましょう。電子書籍はリクエストを優先して購入しています。**たくさんのリクエストをお待ちしています!**

リクエストしたのに
購入されない…?!

- 別のプラットフォームで購入済み 例:KinoDenでリクエストしたけどMaruzen eBook Libraryで購入済だった
- データベースで利用可能 例:会社四季報、現代用語の基礎知識、ジュリスト等
- リクエスト者のメールアドレスが大学発行のものではない 例:gmailやyahooメールでリクエストしていた

What kind of...? どんな電子書籍があるの？

○ レポート、論文の書き方

アカデミックな作法を学ぶ

大学生が身につけておくべきレポートの書き方や学術論文のマナーを習得



○ 就職活動に必要

早い備えに

業界・業種研究、自己分析、エントリーシート、SPI、面接対策に



○ 通学時の読書にも

授業以外の学びも

外国語の習得に多読・音声読みあげ
資格試験、TOEIC/TOEFL対策



○ 専門分野も教養も

難しい内容をわかりやすく

マンガで読む○○、ビジネス書、音・声を聴く



電子書籍ならではの面白い内容のものが毎月増えています！
リクエスト購入、おすすめ本は図書館Webサイトでチェック▶



event

秋学期の電子書籍利活用に関するイベント

秋学期末試験対策、卒業論文・ゼミ論文対策、就職活動準備に向けて電子書籍の利用法を説明するイベントを開催予定です。図書館Webサイトや掲示などご案内します。

所蔵資料紹介

公益財団法人図書館振興財団の2022年度振興助成事業として決定した「同志社大学図書館所蔵貴重資料コレクションのデジタルアーカイブ化」事業に基づき、以下資料の撮影・公開を実施しました。

① 「Ars dictandi et Ars notariae」8点
(文書スタイルの技法および公証術の理論と実務に関するコレクション)

② 小室・沢辺記念文庫の「立原翠軒集」58点



① 「Ars dictandi et Ars notariae」は、主に16世紀に刊行された資料(1489~1584刊のオリジナル資料)で、中世ヨーロッパに誕生した公証人による法律文書作成・公証実務のための基本書、訴状作成などの弁護実務のための基本書、判例集や法律用語辞典等から構成されています。15世紀から16世紀にかけては、「法が学問化」されていくという西洋法制史において重要な時期であり、法律実務の現場を押さえるために必読文献であるため、実務研究の側面から「法の学問化」研究をより深める効果を期待することもできます。

また、現在も閲覧できる保存状態の綺麗な資料という点でも貴重であり、民事関係法律実務の全体を見渡すことができるまとまりのあるコレクションという点で、独自性を持ったコレクションとなります。

② 小室・沢辺記念文庫とは、宮津市出身の自由民権家の小室信介、沢辺正修の記念文庫のことです。その中で、江戸時代の儒学者である立原翠軒の自筆稿本や自筆写本、旧蔵書等を合わせて「立原翠軒集」としています。



立原翠軒は、江戸時代に作成された歴史書『大日本史』の校訂に努め、その編纂を通じて、尊王攘夷思想を発展させていきました。翠軒の尽力により、明治維新の思想的原動力となった水戸学が結実していったといわれています。

コレクションの中には、江戸時代の国学者である堀保己一氏らとの書簡の写本等も含まれており、翠軒の交流関係や思想をうかがい知ることができる貴重な資料となっています。

旧蔵書は和書だけではなく、新井白石が書いた西洋の研究書である『西洋紀聞』や兵法書等、立原翠軒の思想を構築していく過程を推察できる資料が含まれており、尊王攘夷論の思想に大きく舵を切る拠点となった近世史の研究に貢献することができるコレクションといえるでしょう。



同志社大学デジタルコレクション

Ars dictandi et Ars notariae	立原翠軒集
	

本冊子『書籍館』名前の由来

しょやくかん

『書籍館』とは、図書館の旧称です。1872年に文部省が東京の湯島聖堂内に創設した図書館(現在の国立国会図書館の前身の一つ)の名であり、明治初期には、日本の複数の図書館が『書籍館』と称されました。

同志社大学図書館の起源としては、1876年に校舎の1階に設けられた書籍縦欄室(図書室)が最初であり、その後1885年に初代図書館『書籍館』(現有終館)の定礎式が行われました。校祖新島は、教育方針の3要素の1つに“well selected library”を挙げており、自身の蔵書も教員生徒等に公開して、教育に情熱を注ぎました。この図書館報の名称『書籍館』は、図書館報の発行にあたり、新島がいた原点に戻って、同志社大学図書館を再考したいという思いから名付けたものです。



同志社大学
図書館報vol.12
『書籍館』
2023年9月1日発行

編集・発行:同志社大学図書館

〒602-8580

京都市上京区今出川通烏丸東入

Tel: 075-251-3960

E-mail: jji-gakjo@mail.doshisha.ac.jp

https://library.doshisha.ac.jp/